



平成 21 年 5 月 13 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
 代 表 者 名 取締役社長 松 井 政 彦
 (J A S D A Q ・ コード 8 7 0 5)
 問 合 せ 先
 役 職 ・ 氏 名 取 締 役 中 村 元 治
 電 話 0 3 - 5 5 4 3 - 8 7 0 5

特別損失の発生および平成 21 年 3 月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成 21 年 3 月期（平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日）の通期の業績予想について、平成 20 年 11 月 14 日付当社「平成 21 年 3 月期第 2 四半期決算短信」にて発表いたしました通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 21 年 3 月期 連結業績予想の修正等

通期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 予 想 (A)	7,870	407	198	503
今 回 修 正 (B)	6,445	1,729	1,429	3,842
増減額 (B - A)	1,425	1,322	1,231	3,339
増 減 率	18.1%	-	-	-

修正理由

当期の世界経済は、下半期に発生した米大手証券会社の経営破綻をきっかけに信用リスクが一段と高まり、世界同時不況といわれる歴史的な景気後退へとつながりました。これらの影響もあり、上期において回復基調をみせた国内商品先物市場は、株価の下落等から投資マインドが後退したこともあり、依然として市場の流動性が低下している状況が続いており、全国商品取引所の総売買高は、92,623 千枚（前年同期比 34.8%減）となり、5 期連続で前年度を下回る結果となりました。

このような環境の中、当社グループの中核事業である商品先物取引事業の受取手数料は、主力である貴金属市場や農産物市場における減少が影響し、4,875 百万円となる見込みであります。また、売買損益につきましては、74 百万円の利益となる見込みであります。農産物市場および砂糖市場での損失が影響したため、予想を下回る結果となりました。

このほか、為替証拠金取引事業では、受取手数料が 139 百万円、売買損益が 223 百万円の利益となる見込みであります。また、証券取引事業では、受取手数料が 150 百万円、売買損益が 142 百万円の利益となる見込みであります。

通期の連結業績予想につきましては、第 2 四半期会計期間（7～9 月）の営業収益が第 1 四半期会計期間（4～6 月）に比べて改善していたこともあり、この傾向が下期においても継続すると見込んでいたことから、営業収益を 7,870 百万円と予想しておりましたが、貴金属市場や農産物市場を中心に商品先物市場の規模縮小が予想以上に進んだ結果、営業収益は 6,445 百万円（前回予想比 18.1%減）となる見込みであります。

一方、営業費用につきましては、人件費を中心とした見直しによる削減効果などにより、前回予想より 102 百万円減少して 8,175 百万円となる見込みであります。しかしながら、営業収益の落ち込みを埋めるまでには至りませんでした。

この結果、連結営業損失は 1,729 百万円、連結経常損失は 1,429 百万円となる見込みであります。

このほか、平成 21 年 4 月 3 日付にて発表いたしました「平成 21 年 3 月期投資有価証券評価損に関するお知らせ」にあるとおり、特別損失として投資有価証券評価損 1,414 百万円を計上いたします。

また、現在の事業環境および今後の見通しを勘案した結果、保有する固定資産の減損損失 643 百万円を特別損失として計上する見込みのほか、財務の健全性の観点から訴訟に伴う損失にそなえて、訴訟損失引当金繰入額 172 百万円も特別損失として計上する見込みであります。この結果、連結当期純損失は 3,842 百万円となる見込みであります。

ご参考：前期の実績（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
通 期(H19/4～H20/3)	8,058	767	793	19

2. その他

上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、市場環境の変化など様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以 上